どの とは、 合は、 それを舞うに よほど上手な為手であっても、 れほど際立 るものではない の良さが十分にうまく醸 ことをしらなけ 格のある、 べき っても、 全てがそろわなければ、 た能を演ずる場合には、 見どころもそれほど目を引くものではなかったりするの であ 、すなわ 一っては 本説とも 位の高い 相応しいような無上の為手であったとしても、 れば 為手の ち為手が何 いうべ ならな までも演者に それに相応し 能と 位、 し出されることは難しい。 き主題がしっ をどこまで出来るかとい 大様であまり目立たない 目利きの存在、 どのような能をやれ その良さがそれほど上手く表現で 相応しくない場合がある。 うものもあって、 曲 に書か 相応 の曲を 晴 かり れて れ舞台でなければ、 演じる場所や してい いる言葉や動 選ぶべ そのような能 ばよ こうい て、 うことを考え きだ ような たとえ、 か ときわ と は、 作 つ 分な たこ 曲 の場 が そ で 客

く演じ なりの観客や為手も、 自然の中や、 の為手であっ した者も面 ような客の求めにも、 わらずどれも上手く演じることが出来るほど ることが出来なくて、 贔屓すじに求められて ままに、 の判断が曖昧になるもので、 小振りの 曲の良 目を失ったりすることがある。 幽玄を表現できる能 ても、 田舎や、 花を極め 大舞台や晴れ舞台や身分の高 能で、 し悪し 演じるに相応し そのような場所で演じると 夜の庭などで演じるのが向 ちゃ た為手と言うべきではな 出 所がそれほどし んと応じることが出来るような 為手の名折れ の舞台で演じて、 がある。 い場合がある。 そこで面白 は、 つま になったり、 つ か 思っ さほどな l) と思 演ずる場所 した曲 0 て 為手で の前、 われ、 は、 て、 良し悪 で 場を設定 りも上手 な それ も、 ある その く上 7